

8. B隊行動記録表

第1日		第2日		第3日		第4日	
8月7日(火)		8月8日(水)		8月9日(木)		8月10日(金)	
開会式		苗場山コース		平標山コース		三国峠コース	
宿舎		苗場プリンスホテル幕営地		苗場プリンスホテル幕営地		苗場プリンスホテル幕営地	
時刻	地点・行動	時刻	地点・行動	時刻	地点・行動	時刻	地点・行動
		3:30	起床	3:30	起床		
						4:00	起床
		5:00	引継式	5:00	引継式		
		5:26	幕営地バス出発	5:38	幕営地バス出発		
				5:47	平標駐車場 着		
		6:22	祇川駐車場 着	6:08	平標駐車場 発	6:05	引継式
		6:50	祇川駐車場 発 チーム行動	6:52	台地 着(小休止)	6:50	幕営地 発 隊行動
		7:47	リフト降り場 副隊長着	7:58	鉄塔台地 着(小休止)	7:25	浅貝スキー場 着(小休止)
8:45	受付	8:08	リフト降り場 隊長着(集結)	8:52	松手山通過	8:40	毛無山 着(小休止)
		8:45	リフト降り場 発 班行動へ				
		8:49	下ノ芝通過				
9:10	アトラクション	9:20	中ノ芝 着(小休止)	9:12	1677標高点 着(小休止)		
		9:41	上ノ芝通過	9:52	1677標高点 発 班行動へ		
		9:59	股すり岩通過				
10:00	開会式	10:06	田代分岐通過			10:01	三角山手前 着(小休止)
		10:30	お花畑 着(小休止)			10:39	三角山通過
						10:55	1597標高点手前 着(小休止)
11:05	登山隊編成	11:02	雲尾坂通過	11:16	平標山頂 着(小休止)		
		11:23	苗場山頂 着(大休止)				
12:00	各種審査	12:31	雲尾坂通過	12:03	平標山の家 着(小休止)	12:02	三国山手前鞍部通過
		12:47	お花畑 着(小休止)			12:36	三国峠 着(大休止)
13:32	コース隊編成	13:23	田代分岐通過	13:09	林道出会い 着(大休止)	13:38	三国峠登山口 着
13:56	バス出発	13:30	小湿地 着(小休止)	13:46	林道出会い 発 隊行動へ	13:41	三国峠登山口バス出発
						13:47	幕営地バス着
14:40	幕営地バス着	14:50	リフト降り場 着(小休止)	14:36	平標駐車場 着	14:16	解散式
				14:56	平標駐車場バス発	14:50	バス出発
15:00	合同引継式	15:32	ゴンドラ山頂駅 着(小休止)	15:03	幕営地バス着		
15:24	B隊引継式			15:20	引継式(講話は中止)		
15:44	設営審査				諸審査開始		
16:06	A・B隊交流会	16:31	ゴンドラ山麓駅 着(集結)				
		16:54	ゴンドラ山麓駅発 隊行動へ				
		17:17	幕営地着				
		17:19	引継式				
			諸審査開始				
17:05	炊事装備審査			17:00	入浴		
20:00	消灯・就寝	20:00	消灯・就寝	20:30	消灯・就寝		
苗場プリンスホテル幕営地		苗場プリンスホテル幕営地		苗場プリンスホテル幕営地		宿舎	

B隊行動記録

B隊コース隊長 新保雅稔
(新潟県立柏崎工業高等学校)

新潟県の「平標山」「苗場山」「三国峠」を会場とした北信越かがやき総体登山大会が無事終了しました。理解ある開催地域と穏やかな天候に恵まれた大会であったと思います。さらに、大会運営関係者のみでなく、参加していただいた選手監督の皆さんのご理解ご協力によるところも大きく影響したと感じています。お力添えをいただいた多くの方々に感謝申し上げます。

僭越ではありますがB隊を代表して下記により、大会の概要報告をさせていただきます。

第1日目 8月7日(火)開会式～幕営地

7月後半から猛暑続きで、例年であれば過ぎやすいはずの苗場プリンスホテル周辺でも気温が上がり、猛暑の中で熱中症が懸念されましたが、大会が近づくにつれ、突然の雨と落雷が心配の種に加わりました。

湯沢町カルチャーセンターでの開会式の最中に短時間ではありましたが、かなり強い雨が確認され、早くも予定変更かと不安な気持ちになりましたが、気象担当より雨を降らせる雲はないとの力強い助言を得て、予定通り屋外でのコース隊編成となりました。開会式ではいよいよ大会開始という緊張した雰囲気ではありましたが、コース隊編成ではB隊な



らではの活気ある明るい笑い声が聞こえてい

ました。その後、50分ほどのバス移動で苗場プリンスホテル幕営地へ移動。暑いとはいえ標高1000m弱の高原の風を感じることができたと思います。



引継式では、3日間の生活基盤となる幕営地での注意事項について念入りに説明が行われました。心配された雨もなく、幕営審査を終え、A隊B隊合同の交流会、炊事審査とほぼ予定通り実施されました。

第2日目 8月8日(水)苗場山コース

B隊行動初日は苗場山コースです。サブ行動ではありますが、行程が比較的長く、行動初日であることから選手の体調が気になるところです。また、チーム行動などの特別行動が含まれることから運営上の観点からも気を遣う行動となりました。おまけに祓川駐車場までのバス移動は、ガスに覆われ小雨が降る状況で、選手も早速雨具着用かと重い気分であったと思います。

祓川駐車場には簡易トイレを多数設置し、出発前に利用してもらう計画です。出発時間が若干遅れても、その後の行動を考えると、ここでのトイレ利用は必要であるとの判断から、時間の遅れもさほど気になりませんでした。結果として20分遅れのスタートとなりました。

1ピッチ目はチーム行動によるスタートです。和田小屋までの林道は、道幅もあり見通しも良いことから、チーム行動であってもさほど混乱なく進行したと思います。時折、大

粒の雨が当たるなどしたため、各校の判断で雨具を着用したチームもありました。すべてのチームが60分から90分の予定時間内にチーム行動を終えました。その後、班行動に



移ってからもガスは晴れず、暑さを気にせず登山行動ができホッとした反面、視界が悪いため、苗場山の華麗な景色を十分堪能することができなかったことが心残りです。しかしながら、露に濡れた爛漫の花々はいつになく綺麗であったと思います。苗場山の木道歩きでは、一瞬ではありましたが、一面に広がる



草原と地塘を望むことができました。タイミング良く総監督の皆さんの応援もあり、インターハイらしい雰囲気を感じる一幕でした。渋滞が懸念された苗場山の下りですが、一般登山者の皆さんから応援の暖かい言葉をいただき、また気持ちよく道を譲っていただくなどのご協力があり比較的スムーズに行動できたと思います。田代への下山に使用したルートは、紅葉の時期にゴンドラを利用して苗場山に向かう登山客が利用しますが、それほどポピュラーでなく登山道も部分的に歩きにく

い状態で、大会運営上、不安を抱えたコースのひとつでした。この下りに苦労した選手も多いと思います。特に急斜面を延々と下る部分は、計画当初、足がかりもほとんどなく、全くの滑り台状態でしたが、運営担当をはじめ多くの協力者から手を加えていただき、何とか歩ける状態となったものです。

長い下りが終わりドラゴンドラの山頂駅に到着。ここまではほぼ予定時刻通りでしたが、やはりここでもトイレの混雑があり、さらにゴンドラの運転状況や乗車方法なども影響し、最終的に幕営地での引継式が約50分遅れとなりました。審査の方々には大変ご迷惑ご心配をお掛けしましたが、大会初日であること、長めのコースであったこと、さらにトイレやゴンドラの状況についてはやむを得ない状況であったことなどから許容範囲であろうと思います。選手は良く歩いてくれましたし、何よりも無事下山したことに大きな意味があると考えています。

第3日目 8月9日(木)平標山コース

本日のコースは松手山を經由し、平標山、平標山の家を経てスタート地点に戻る周回コースです。昨日の苗場山コースは、チーム行動及び班行動が主でしたので、隊行動は事実上本日が最初となります。途中、狭い休憩地での集中を避けるため一時的に班行動とし、時間差を設けるなどやや複雑な行動計画のため、班長・副班長をはじめ行動隊役員は事前に綿密な打ち合わせを繰り返してきました。また、メインザック行動で松手山までの急登をクリアできなかった場合も想定し支援方法についても様々なシミュレーションを実施し大会に臨みました。

大会2日目ということもあり、選手はテキパキと出発準備を整え、集合場所に整列し定刻に引継式を実施することができました。給水とトイレ利用の件を再確認した後、バスで平標駐車場へ移動。駐車場には一般登山者の

車両もありましたが特に混雑もなく整列点呼を終了。いよいよ登山行動の開始です。車道から登山口の登りに入る部分で若干渋滞したものの、快調に歩を進め、鉄塔台地を經由し、松手山に至りました。ここまでの間で、離脱するチームが多いのではと予想していましたが、さすがに全国大会に出場する選手だけあって、急登続きにもかかわらず、特に遅れることもなく好調なペースでの行動でした。松手山付近からは視界も良好で、この先のルートである一の肩から平標山頂まではっきりと



視認できました。また、隊列が規則正しく繋がっていることから、順調な隊行動であることを確認しました。しかしながら森林限界を過ぎた松手山以降は、日陰がなく、炎天下の行動のうえ風もない状態が続きましたので、選手の体調にも若干の不安が出てきました。

1677m地点で隊行動から班行動へと移行し、一の肩へと向かいます。この急登は、辛い登りとなりましたが、三国方面、苗場方面など今大会すべてのコースの眺望や夏の花々が咲き乱れるお花畑、その後山頂まで続くな



だらかな草原の稜線歩きなどを堪能していただけたことと思います。平標山頂は大人数が休憩できる十分なスペースがないため、班行動で時間差を設けて対処しました。わずかな休憩でしたが、仙ノ倉山への広大な稜線やその後方に位置する新潟群馬県境の山々を臨むことで、達成感を味わっていただいたことと思います。平標山の家までの下りは、階段続きで足腰の疲れが増すところですが、特にペースが落ちることもなく班毎に山の家に着。ここでも班行動による時間差のため、さほどの混雑することもなくトイレの利用が可能でした。十分な休憩を取った後、林道に向けて下山。林道出合いでは所定の審査を終え、広い林道の木漏れ日の中、ようやく大休止と



なりました。各班からは明るく楽しそうな会話が聞こえてきました。最終ピッチは、再び隊行動により出発地の駐車場まで林道を歩きます。平標駐車場には40分遅れで到着。幕営地に戻って予定通り講話を実施しても影響のない範囲ですが、本日は入浴設定日なので、その大切な時間を確保するため、残念ですが講話中止とさせていただきます。

第4日目 8月10日(金)三国峠コース

最終日の朝は賑やかな雰囲気が始まりました。3日間過ごした幕営地では、出発前の慌ただしい時間を割いて、通り慣れた設営隊の総合案内テントやサンプリング場所に多くの選手や監督が訪れ、サポートの生徒達との別れを惜しんでいました。

本日のコースは幕営地から歩いて出発なので、設営隊をはじめ、多くの関係者に見送られてのスタートとなりました。心配された国道17号線を渡る信号交差点では、警察官の誘導によりスムーズに通過できました。まだ早い時間帯にもかかわらず、浅貝の旅館街では、街の人々が表に出て声援を送ってくれました。大会準備期間中にお世話になった方々も多く、改めて地域の皆さんに支えられた大会であることを実感しました。

浅貝三国コースも急登から始まるコースで、毛無山まではサブザック行動ながら厳しい行動が強いられます。毛無山を過ぎた休憩地点で、審査終了の挨拶があり、選手達の拍手により審査員の皆さんとお別れしました。



審査から解放された和やかな雰囲気の中、ブナの木漏れ日の小径を三角山に向けて進みます。休憩地点では、顔見知りになった同じ班の行動役員や他校の選手達との楽しそうな会話が聞こえていました。三角山で群馬県境の稜線に出て三国峠に向かいます。日差しが強くなり、気温も上昇してきましたが、ペースが落ちることなく順調な行動でした。振り返ると平標山と仙ノ倉山の綺麗な鞍部が確認でき、さらに谷川岳の急峻な岩場も遠望できましたが、選手諸君は、隊行動のため景色を楽しむ余裕がなかったかもしれません。

三国峠で大休止を取った後、長かった今大会の様々な場面を思い出しながら整然と三国トンネルへ下山し、バス乗車となりました。

幕営地では解団式が行われました。短い期

間ではありましたが行動を共にした選手達はお互いの健闘を称え合い、それぞれがこれまで苦労して積み上げてきた努力の成果を思い、それぞれの達成感を味わっている様子が印象的でした。



第5日目 8月11日(土)閉会式

湯沢町カルチャーセンターでは、厳しかった昨日までの登山行動を終え安堵の表情を浮かべる選手たちが勢揃いし、和やかな雰囲気ながらも、粛々と閉会式が進行。感激と悔しさが交錯する成績発表は、選手達の気持ちが伝わり、胸が詰まる思いがします。ぜひ、その想いを後輩達に引き継いでほしいと思います。隊旗が次年度開催県の大分県への引き継がれ、平成24年度全国高校総体登山大会が閉幕しました。

最後に

連日、登山行動の後に行動隊のミーティングを実施してきましたが、B隊においては特にトイレの確保（利用時間と設置数）と、可能な限り女性役員（班長、副班長のいずれか）の登用が必要であるとの意見が多く出されました。また、標高が低く市街地に近い幕営地では施設設備の許す限り入浴（シャワー含む）の機会を与えるべきとの感想もありました。

B隊の選手が遺憾なく本来の力を発揮できるような大会環境の構築が必要と思われます。今後この大会運営に関わる方々には是非ご検討いただきたくお願い申し上げます。

9. A隊支援隊記録

A隊支援隊長 中野 忠雄
新潟県立高田農業高等学校

1 支援隊人数について

<今回>

支援隊長

副支援隊長

副隊長B付き（先発）支援隊員

監督対応支援隊員

AED対応支援隊員

班付き支援隊員（8人） 合計 13名

ザイルなどは「監督対応支援隊員」が持ったが、実際には監督隊は後方におり、ザイルが必要なときに対応ができたかどうか疑問である。また、1日目に膝を痛めた支援隊員がおり、2日目以降の行動離脱を余儀なくされた。これらのことから、次年度はザイルなどの救助用具を持つ支援隊員を1名増員し14名体制で臨むのが望ましいのではないかと感じる。

2 医師・看護師・救護について

今回、A隊の医師・看護師は3日間通して行動に参加してもらいとても良かった。医師の的確な判断で、選手を安全に幕営地まで誘導できた。支援隊として、医薬品の種類と量について予め医師と連絡調整ができれば良かった。救護は、医薬品や救急用具を持たなければならいたため体力がある人が望ましい。今大会の医薬品量は、メインザックでちょうど入る程度であった。

3 支援物資について

班付き支援隊員には、水 500ml、氷 500ml（500ml ペットボトルを凍らせたもの）、簡易トイレ、ヒヤロン2個を持った。AED対応支援隊員は、AEDとツエルト2個を持った。監督付き支援隊員は、ロープなどを持った。支援物資に過不足はなかったか。特に熱中症対策の物資はこれで十分であったか検討が必要である。

当初、トイレテントを各班に1個ずつ持たせる予定であったが、実際は支援隊長が1個、隊の前方にいる班付く支援隊員に1個持たせた。

トイレテントはA隊では一度も使用しなかった。今後必要か？

AEDやザイルの使用法についての事前研修を行わなかったが、支援隊員全員で行う必要があったのではないかと感じる。

4 自衛隊との連携について

自衛隊の無線や車両の配置について、事前に打ち合わせをすべきであった。自衛隊には、動けなくなった選手の搬送についても詳しく打ち合わせをすべきであった。

5 監督対応について

ひとり一人のペースにバラツキがあり、特定の人の方が大きく開くことがあった。また、マナーの悪い監督もおり、副支援隊長及び監督対応支援隊員は対応を苦慮した。副支援隊長及び監督対応支援隊員はいずれも教員ではなかったが、どちらかは教員が良かったのではないかと感じる。監督へ事前に注意を促すことも必要かもしれない。

参考資料（A隊 隊行動時の配置）

役 割		コース支援隊 持参装備			
コース副隊長B					
コース支援(先発)		ノコギリ			
旗手					
コース副隊長 A					
1 班	副班長、選手団、班長				
	1班コース支援	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ	ヒエロン×2
2 班	副班長、選手団、班長				
	2班コース支援	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ	ヒエロン×2
3 班	副班長、選手団、班長				
	3班コース支援	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ	ヒエロン×2
4 班	副班長、選手団、班長				
	4班コース支援	トイレテント(1日目)	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
コース支援(AED)		AED	ツエルト×2		
5 班	副班長、選手団、班長				
	5班コース支援	トイレテント(3日目)	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
6 班	副班長、選手団、班長				
	6班コース支援	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ	ヒエロン×2
7 班	副班長、選手団、班長				
	7班コース支援	トイレテント(2日目)	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
8 班	副班長、選手団、班長				
	8班コース支援	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ	ヒエロン×2
隊付き総務					
記録					
コース隊長					
通信					
自衛隊通信					
医師、看護師					
救護		医薬品			
コース支援隊長		トイレテント	ツエルト		
自衛隊支援					
コース支援(監督対応)		ロープ	カラビナ×6	スリング 120cm×4	ハーネス
監督団					
コース副支援隊長					

10. B隊支援隊記録

B隊支援隊長 笛木 一弘
新潟県立加茂農林高等学校

1 支援隊について

<今回>

支援隊長

副支援隊長

副隊長B付き(先発)支援隊員

監督対応支援隊員

AED対応支援隊員

班付き支援隊員(8人) 合計 13名

ザイルは「副支援隊長」が持った。実際、ザイルが必要なときには自衛隊の力を借りるといふ話もあり、位置的には「監督対応支援隊員」の方がよかったと思う。

1日目にすねを痛めた支援隊員がおり、2日目以降の行動に参加できなかった。これを、AEDを班付き支援隊員の1名に追加で持ってもらうことで対処したが、負担は大きく、支援隊員の人数はギリギリであり、支援隊側にトラブルがあると困ると感じた。

支援隊はメインザックを持つように言われたが、実際は荷物を持てる程度のサブザックでもよいと感じた。

B隊の各班では、班長・副班長・支援のうち、少なくとも1人(特に支援)は女性が望ましい。

実際、生徒の「支援」に関わる人は、(問題が起きたとき、ある程度責任のとれる)教員が望ましい。

2 医師・看護師・救護について

今回、B隊の医師は毎日交代・看護師は3日間通して行動に参加してもらった。できれば3日間通しの体制が望ましい。選手のトラブルに対し、医師と看護師の的確な判断で現場治療(注射、投薬、湿布など)してもらい、選手を安全に幕営地まで誘導できた。

医薬品の種類と量について予め医師と連絡調整ができれば良かった(途中で看護師のアドバイスで薬を追加した)。

救護が持つ医薬品等は、「救護」と「支援隊

長」で半分ずつ持った。救護が男性なら(メインザックで)全部持ってもらってもよかった。

3 支援物資について

班付き支援隊員には、水500ml、氷500ml(500mlペットボトルを凍らせたもの)、簡易テント、簡易トイレ、ヒヤロン2個を持った。AED対応支援隊員は、AEDとツェルト2個を持った。副支援隊長は、ロープなどを持った。1日当たりB隊全体で実際に使ったのは、簡易テント(5~7人程度)、簡易トイレ(1~2個)であった。他は無い。今回、支援物資が不足した事態は起こらなかったが、特に熱中症対策の物資には何が適当かを専門家の意見を聞き検討が必要と思われる。

氷のペットボトルは、露がついて大変だったと思われる。持っていく必要性が疑問である。

簡易テントの使用を申し出る生徒は少なく、生徒はトイレを我慢しているように見える。休憩場所では(選手から要請されなくても)必ず2~3個のテントを建てておくことも必要なのか、とも考える。大会だから必要ない、テントを建ててくれと言わないのだから必要ない、という考え方もあり迷う所である。

AEDやザイルの使用方法についての事前研修を行わなかったが、支援隊員全員で行う必要があったのではないかと感じる。

4 自衛隊との連携について

前日の引継ぎ式の時に、翌日の打ち合わせをした。歩きながらも話しをしたので、まあまあ連携できたと思う。もっと詳しく、自衛隊の無線や車両の配置について事前に打ち合わせをすべきであった、とも思う。

自衛隊には、平標山のコースで、生徒1名をオンブ(山頂直前→山頂)、メインザックを持つ(山頂直前→下山)、ということをしてもらった。生徒が下山時に歩けたからよかったものの、ずっと歩けなかったら、自衛隊員10名で

交代で下ろす予定でいた。これが、何人も出るようならヘリコプターも必要となり、不安要素を抱えて大会運営をしていると感じた。

全般に困るようなマナー違反は見られなかった。副支援隊長と監督対応支援隊員は連絡を密に取り、本隊と適度な距離を保ち行動できた。

5 監督対応について

監督は、歩く間隔に多少の長短はあったが、

参考資料 (B 隊 隊行動時の配置)

役 割		コース支援隊 持参装備			
コース副隊長B					
コース支援(先発)					
旗手					
コース副隊長 A					
1 班	副班長、選手団、班長				
	1班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
2 班	副班長、選手団、班長				
	2班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
3 班	副班長、選手団、班長				
	3班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
4 班	副班長、選手団、班長				
	4班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
コース支援(AED)		AED	ツエルト×2		
5 班	副班長、選手団、班長				
	5班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
6 班	副班長、選手団、班長				
	6班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
7 班	副班長、選手団、班長				
	7班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
8 班	副班長、選手団、班長				
	8班コース支援	トイレテント	水 500ml	氷 500ml	簡易トイレ ヒエロン×2
隊付き総務					
記録					
コース隊長					
通信					
自衛隊通信					
医師、看護師					
救護		医薬品			
コース支援隊長		医薬品	ツエルト	ノコギリ	
自衛隊支援					
コース支援(監督対応)		ロープ	カラビナ×6	スリング 120cm×4	ハーネス
監督団					
コース副支援隊長					